

2023年10月14日 生月町学童保育所生きっ子クラブ

生月町中央公民館にて、生月町学童保育所生きっ子クラブの元気な子どもたちと遺伝について一緒に勉強しました。午前中から食生活改善推進員の方との食育についての学習をされた後に開催したので、小学校1～5年生の子どもたちと、学童の先生方、食生活改善推進員の方も一緒に参加してくれました。今回のプログラムは『PTUの味』『遺伝の木』『特徴ゲーム』です。

まず『PTUの味』では、薬液をしみこませたろ紙を舌の上のせて味を確認します。参加者の皆さんが、苦い味を感じた人、苦い味を感じなかった人、どちらに当てはまるか、グラフを作って確認しました。苦い味を感じなかった人よりも、苦い味を感じた人が多かったです。



どちらのグループにも男の子、女の子がいました。この味の違いは遺伝の「特徴」の一つです。昔は苦みを感じる特徴が役に立っていたと考えられています。しかし今ではもうこの特徴は生きていく上で有利でも不利でなく、あまり役に立たないものですが、遠い昔の特徴を先祖から伝えられているということを学びました。



つぎに、「二重まぶたか？一重まぶたか？」「耳たぶは顔にくっついてる？」「親指がぐーんと曲がる？」「指の第一関節と第二関節の間に毛は生えてる？」等、鏡やルーペを使い、お隣のお友達や先生たちと熱心に見合わせながら自分の特徴について観察しました。



その自分の特徴が書いてあるシールを丸いカラフルなカードに貼って、自分の特徴が花びらになった自分だけのお花を作りました。お花の真ん中には自分の似顔絵を描いています。

そしてこのお花を『遺伝の木』に貼りました。遺伝の木には、枝分かれをしている部分に特徴が書かれており、自分の特徴に当てはまる枝に進み、たどり着いた枝にお花を貼っていきます。

みんなのお花を貼った後には、全ての枝にお花がきれいに咲きました。参加しているお友達が変わると、お花の咲き方は変わってくることに、いろんな特徴を持っているお友達がいるから、たくさんの枝にきれいにしてお花が咲くことに気づくことができました。

確認した自分の体の特徴を使って、みんなで『特徴ゲーム』をしました。代表のお友達に1つずつ自分の特徴を発表してもらい、同じ特徴を持ったお友達は立ったまま、違う特徴のお友達は座っていきます。

1人目に発表してくれたお友達は11個の特徴、2人目に発表してくれたお友達は10個の特徴で、同時に立っているお友達はいなくなりました。



たくさんのお子さんが「私もやりたい!」と積極的に手を挙げてくれて、じゃんけん大会を行ってから代表のお友達を決めたりと、とても大盛り上がりで私たちもとても楽しかったです。このゲームを通して、1つの特徴をみると同じ特徴を持っている人はたくさんいるけれど、たくさんの特徴をみていくと、同じ特徴の組み合わせを持つ人は誰もいないこと、人は一人一人違うことを学びました。

最後に5年生のお子さんが「みんな違うことを学びました。」「同じ特徴がいっぱいあるお友達とは、遠く祖先をたどっていくと実は繋がっていたりするのかな。」など、それぞれ感じたこと、学んだことを教えてくれました。今回、みんなが元気に楽しく参加してくれたおかげで、私たちも一緒に楽しく学ぶことができました。今回の学習で、みんな1人1人が世界でただ1人しかいない大切な人であること、お隣のお友達も同じように世界で1人しかいない大切な人であることを感じてくれることを願っています。

今回の学習前に、皆さんが作ったとってもおいしい押し寿司とお味噌汁をごちそうになりました。「お味噌汁にサバ缶って合うんだ!おいしい!」と私たちも教えてもらいました。最後に、参加してくださった皆さん、サポートしてくださった学童の先生方、食生活改善推進員さん、楽しい時間をありがとうございました。

文責：平間理子